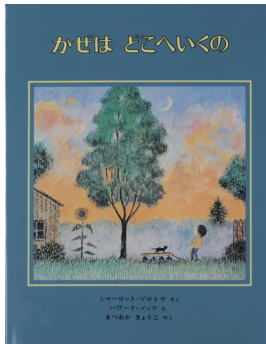


はじめてであう科学の本



かぜは どこへいくの

シャーロット＝ゾロトゥ／作

ハワード＝ノッツ／絵

まつおかきょうこ／訳

偕成社 1981年 1000円

“不思議なこと”でいっぱいの子の小さな男の子の質問に、おかあさんが答えます。この世のものはすべて終わるのではなく、別の所で再び違った形ではじまるのだと。「おしまいになっちゃうものは、なんにもないんだね。」と男の子は納得します。単色の鉛筆画と言葉が見事に響き合った絵本です。



やさいのおなか (幼児絵本)

きうちかつ／作・絵

福音館書店 1997年 1000円

「これ なあに」と言う言葉の隣にはモノクロームで描かれた不思議な絵(やさいのおなかの絵)があり、ページをめくれば、彩色された答えが描かれています。なじみの野菜も断面で見せられると「なんだろう」と考えてしまいます。子どもたちが大好きなあてっこ絵本です。



ふしぎなナイフ (こどものとも絵本)

中村牧江・林健造／作

福田隆義／絵

福音館書店 1997年 800円

不思議なナイフが、まがる。ねじれる。おれる…。そして、のびて、ちぢんで、ふくらんで…。不思議なナイフの変身。どの年齢の子どもにも大人気の科学絵本です。



ふゆめがっしょうだん (かがくのとも傑作集)

長新太／文

富成忠夫・茂木透／写真

福音館書店 1990年 900円

いろいろな木の葉痕の拡大写真に、長新太が詩を付けました。まるで、動物たちが春を待って合唱しているようです。



みんなうんち (かがくのとも傑作集)

五味太郎／作

福音館書店 1981年 900円

「いろんなどうぶつ いろんなうんち いろんなかたち
いろんないろ いろんなにおい」うんちづくしの絵本です。「いきものはたべるから みんなうんちをするんだね」。

(参考図書)

『ずら〜りウンチならべてみると・・・』

西川寛／構成・文 友永たろ／絵 小宮輝之／監修

アリス館 2004年 1500円



ほね (かがくのとも傑作集)

堀内誠一／作

福音館書店 1981年 838円

表紙にはガイコツの絵。私たちの体は、たくさんの骨が組み合わさった骨格を持っています。表紙と裏表紙を一緒に見ると…。骨の動きをわかりやすく描いた絵本です。



からだのなかで ドゥンドゥンドン (幼児絵本 ふしぎなたねシリーズ)

木坂涼／文

あべ弘士／絵

福音館書店 2008年 800円

「きいてごらん おとがする からだのなかで ドゥン ドゥン ドゥン ドゥン」。イヌは？ ネコは？ とかげは「トゥク トゥク トゥク トゥク」。命の音が聞こえます。



しっぽのはたらき (かがくのとも傑作集)

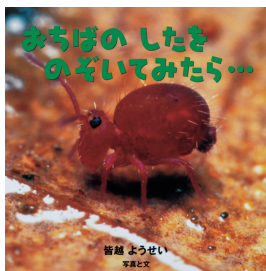
川田健／文

藪内正幸／絵

今泉古典／監修

福音館書店 1972年 900円

サル、イヌ、キツネ、トカゲなど、子どもたちにおなじみの11種類の動物のしっぽの働きを描いた科学絵本です。走る向きを急に変わるとき舵の役目をするキツネのしっぽ、身を守るためにしっぽを切り離すトカゲ、暮らし方によってしっぽの働きがそれぞれ違います。



おちばのしたをのぞいてみたら…

(はっけん たんけん えほん 2)

皆越ようせい／写真・文

ポプラ社 2000年 1200円

顔を近づけて落ち葉の下をそっとのぞいてみましょう。そこには、落ち葉を食べる土壌動物の豊かな世界が広がっています。ダンゴムシ、ダニ、トビムシ、ミミズの卵も。落ち葉の下で続いていく小さな命の循環を、迫力ある写真で紹介します。

(参考図書)

『ミミズのふしぎ』(ふしぎいっぱい写真絵本 3)

皆越ようせい／写真・文

ポプラ社 2004年 1200円



みかんのひみつ (しぜんにタッチ!)

鈴木伸一／監修
岩間史朗／写真撮影

ひさかたチャイルド 2007年 1000円

みかんのおいしさの秘密がいっぱいの美しい写真絵本です。ページをめくるとにみかんの皮がむかれていきます。一房の中には何と270以上の粒が！ みかんの実が成長していく過程もわかりやすく説明しています。

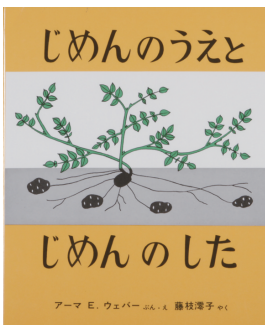


みずたまレンズ (かがくのとも傑作集)

今森光彦／作
小西啓介／デザイン

福音館書店 2008年 900円

雨あがり、草や木には水滴が付いています。虫たちには、この水滴がどのように見えるのでしょうか？ レンズを近づけてのぞいてみると、向こうの景色が逆さまに映っていたり、のぞきこんでいる自分が映っていたり。雨あがりを楽しみになる写真絵本です。



じめんのうえとじめんのした (かがくのほん)

アーマ E. ウェバー／文・絵
藤枝滯子／訳

福音館書店 1968年 1000円

地面の上と目に見えない地面の下を一本の線で分けて、身近な動物や植物の生活の姿と、それらが有機的につながっているしくみを、シンプルな絵と文で余すところなく伝えています。自然界のしくみが子どもにも無理なく理解できます。1968年初版以来ロングセラーの名著です。



ぼくの いまいるところ (かこ・さとし かがくの本 1)

かこ・さとし／著

太田大輔／絵

童心社 1988年 1300円 ★シリーズ全10巻

「ぼくの いま いる ところは どこでしょう。」「ぼくが いま いるのは ことです。」「ここって どこでしょう。」「それは ぼくの うちの にわです。」…。ぼくの家から町へ、日本へ、地球へ、大宇宙の中へと、ぼくの世界が広がっていきます。



わたし (かがくのとも傑作集)

谷川俊太郎／文

長新太／絵

福音館書店 1981年 900円

「わたし」は、おねえちゃん、妹、娘のみちこ。一人のわたしなのに、〇〇から見るとで、呼び名が変わります。「きりんから みると ちび」なのに、「ありから みると でか」と、まったく正反対の呼ばれ方になってしまいます。



みんなおなじ でも みんなちがう (かがくのとも傑作集)

奥井一満／文

得能通弘／写真

小西啓介／AD

福音館書店 2007年 900円

見開きいっぱいたくさんのアサリの写真。同じ仲間でも、大きさ、形、色や模様がみんな違います。ヒマワリのタネは？ ウズラの卵は？ クワガタは？ 「みんなおなじでも みんなちがう」ということがよくわかる写真絵本です。